

群 教 セ	G15 - 01
	平25.250集
	高・キャリア

平成25年度長期社会体験研修報告書

研修先：有限会社あずま産直ねっと

長期社会体験研修員 丸橋 千尋

I 研修内容

1 研修先の概要

有限会社あずま産直ねっとは、伊勢崎市田部井町に位置する野菜生産を主とする農業生産法人である。本法人は2000年に農事組合法人としてスタートし、2003年に農業生産法人化している。現在、約40名の従業員で構成され、伊勢崎市北東部を中心に露地25ha、施設2.5haを作付けている。大型量販店、食品加工メーカー、外食産業と直接取引を行っている。

2 主な研修内容

(1) あずま産直ねっと本社での研修

- 農作物の栽培に関する研修【4月～3月】
多品目に渡る野菜の播種、定植、管理、収穫、調整の各業務を行った。
- 肥培管理・種苗管理に関する研修【7月11・22日】
ミズホ（肥料）、タキイ種苗講師による講義を受けた。
- 消費者交流に関する研修【9月1日・29日・12月1日】
県内産農産物の普及に努める「アグリレディーズネットワークぐんま」の活動に参加した。

(2) 経営・流通に関する研修

- 生産者と大型量販店との交流会での研修【5月14日】（伊香保温泉ホテル木暮）
大型量販店主催の交流会に社長と同行した。
- 中山間地域圃場における研修【5月下旬～11月上旬】（沼田市利根町根利・多那）
現地において野菜の定植、管理、収穫の各業務を行った。
- JGAPに関する研修【6月27・28日・7月27日】（馬事畜産会館・石岡市民会館）
「JGAP指導者研修員資格研修」や日本農業普及学会に出席した。
- 大規模農業法人の視察研修【7月28・29日】（黄金崎農場・いずみ農産）
青森県、山形県の農業法人へ会長と同行した。
- 市場等の視察研修【8月9日】（大田市場、東京食肉市場、ファーム・アライアンス・マネージメント）
卸売市場、農業のIT化推進企業を視察した。
- 商談会での研修【10月9日】（群馬県商工連合会館）
日本政策金融公庫主催の商談会に会長と同行した。
- 協力農家での研修【10月17・18日・11月14・15日】（沼田市利根町砂川・多那）
高原野菜、コンニャクを栽培する農家にて収穫、調整業務を行った。
- Global GAPに関する研修【12月5・6日】（テュフブードジャパン株式会社）
「Global GAP基礎解説セミナー」に出席した。
- 「新・農業人フェア」での研修【2月2日】（東京国際フォーラム）
雇用就農、農業研修、農業体験を考える人々を対象とした企業説明会に会長、社長と同行した。

(3) 交流・連携に関する研修

- 鳥獣被害の対策に関する研修【8月～9月】（群馬県鳥獣被害対策支援センター、利根実業高等学校、沼田市利根町根利）
利根実業高校生の研究発表や実習圃場を視察し、高校生と共に根利圃場の草刈りを行った。

II 研修成果

1 農作物の生産について

(1) 栽培面での成果

- 農業生産法人においても、播種から収穫までの間、絶えず生育状況を観察し、管理業務を怠らないことが基本であり、やはりこのことが農作物の栽培で最も重要であることを再認識した。
- 多くの農家が、顧客のニーズに対応するため、農薬や化学肥料の使用を押さえた農作物の栽培に熱心に取り組んでいることが分かった。
- 研修先では、根を丈夫にし効率的な養分の吸収を促す働きのあるリン酸肥料の使用方に重きを置き、高品質な農作物の生産に取り組んでいることを学んだ。

(2) 経営・経済面での成果

- 各圃場もしくは品目ごとに、業務として作業日報を義務付け、きちんと記帳・蓄積し、会社として管理・活用することが、安定した農業経営には必要不可欠であることを再認識した。
- 平場の法人が中山間地域圃場で作物を栽培することで、端境期にも安定した量の出荷が可能となり、顧客ニーズに対応していることを学んだ。また、地域特有の鳥獣被害への対応では、野生動物との共生を目指した栽培方法や環境作りを取り入れることの大切さを学んだ。
- 「JGAP指導員基礎研修」や「Global GAP基礎解説セミナー」を通し、今後は、安心・安全な農産物生産に加え、就業者の安全や環境の持続の観点にも注視して、取り組まねばならないことを学んだ。

2 農業生産法人について

(1) 新規就農者育成の機能

農業生産法人は、企業経営だけに留まらず、将来の仲間の育成を目指し、従業員に栽培技術を教える機関であることを認識した。効率面だけを考えると、当該部門に特定の従業員を就かせる手法が経営としては望ましいが、一人の従業員に多くの業務を経験させている。このことにより従業員は、農業経営参画に向けての幅広い知識・技術を得ることが可能となっていることが分かった。

(2) 中山間地域振興の機能

平地に位置する農業生産法人が、中山間地域の耕作放棄地で野菜栽培を行うことで、地域振興に貢献していることが理解できた。企業の使命は、利潤の極大化といわれているが、GAPに関する研修でも感じた「今後の農業（企業）の在り方として重要な”地域の持続や環境の維持も踏まえた活動”」について、中山間地域での実際の取組を通して実感することができた。

(3) 小規模農家支援の機能

我が国の農家は、家族による小規模経営が主であり、独自の販路の開拓が難しいといわれている。農業生産法人が地域農家の生産物を集荷し、これらを大口顧客に出荷することで、新たな販路の開拓に繋がっていることを学んだ。農業協同組合が担っている役割を農業生産法人も行うことで、小回りが利いた顧客対応が可能となることを理解した。また、全国各地に展開する農業生産法人が産地リレーを行うことで、取引先と対等かつ安定した供給体制を整えようと努力していることを認識した。

III まとめ

あずま産直ねっとでの研修で得た栽培方法や技術、経営に関する幅広い知識や経験を専門科目や研究活動に取り入れ、生徒に実践的な知識・技術を伝えて行きたい。具体的には、農場での栽培実習をはじめ、経営面として「我が国の農業の現状を伝えると同時に、農家は自身が納得する品質を有する農作物を生産しなくてはならないことに加え、市場でのニーズに弾力的に対応しなくてはならないこと、取引先との信頼関係を得るには安定した質、量の供給が必要であること、このためには、法人経営においては大規模化が重要であること」を生徒が実感を伴って理解できるよう、常に発信して行きたい。

今回の研修を通して改めて実感することができた「農業は、私たちの暮らしにとって極めて重要な産業であると同時に、夢のある産業である」ということを生徒に意識付け、一人でも多くの生徒が農業関連産業や学校への進路について意欲的に考えられるよう取り組んで行きたい。

(担当指導主事 高橋 太郎)